

ババガレイ（地方名ナメタ、ダラリ）



ババガレイの成長

年齢	全長(cm)	
	オス	メス
1	14~23	10~20
2	20~27	20~27
3	22~32	23~33
4	25~34	26~36
5	28~36	29~40
6	31~37	32~42
7	32~40	35~44
8	33~40	38~47
9	37~43	41~50
10	35~48	41~51

生態

- 分布・移動：福島県沖ではごく沿岸から水深300mに分布し、主漁場は200~300mです。産卵に伴い北海道から常磐海域にかけての広い海域を移動すると考えられます。
- 成熟・産卵：産卵期は3、4月と考えられます。
- 食性：多毛類、腔腸動物（イソギンチャク）、甲殻類が主体です。
- 年齢・成長：オス、メスとも10歳以上になります。成長は、オス・メスのほか同一年齢の個体間でも差があります。仙台湾では1歳で全長13~17cm、2歳で16~33cm、3歳で21~38cmになります。

漁獲の動向

平成22年の漁獲量は244トン、金額は1.7億円でした。平成10年~平成20年では200トン以上、2億円以上の水揚げがありました。

震災以降、操業自粛と国による出荷制限のため、水揚げはありませんでしたが、平成28年11月から試験操業を開始しました。漁獲量は平成29年以降155~192トン、漁獲金額は7千~9千万円（H28~29年は相対取引のため、漁獲金額データなし）で推移しています。令和4年は漁獲量、漁獲金額ともに前年を下回りました。

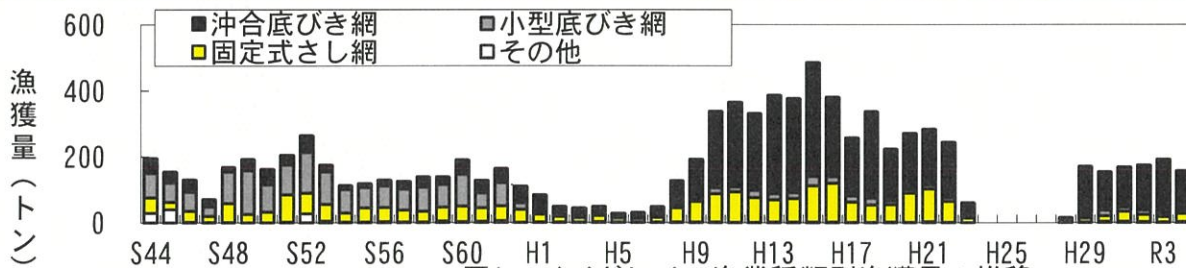


図1 ババガレイの漁業種類別漁獲量の推移

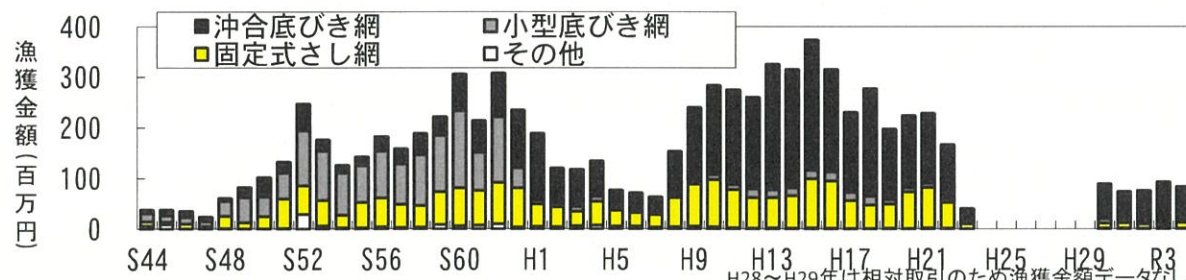


図2 ババガレイの漁業種類別漁獲金額の推移

資源の状態

- 底びき網のCPUE（1時間曳網あたりの漁獲量）は、震災後増加し、平成28年から減少しましたが、震災前より高い状態を維持しています。
- 近年の加入は低位とみられます。

資源の水準：中位
資源の動向：減少

現在実施されている管理策

特にありません。

今後考えられる管理策

小型魚を保護し単価の高い大きな魚を漁獲することで、資源に負荷が少なく経済的な漁業をめざすことが必要と考えられます。